



兵庫から新たな未来を創る

1 21世紀兵庫長期ビジョンとは

兵庫県長期総合計画の系譜

現行ビジョン以前：主に**高度成長**をめざす基盤づくりのため、**行政主導**でつくる総合計画

県政振興計画

21世紀への
生活文化社会計画

兵庫2001年計画

策定期期	1966（昭和41）年度	1975（昭和50）年度	1985（昭和60）年度
計画期間	1966～1980年度	1975～1985年度	1985～2000年度
目標	豊かな暮らしと快適な生活・ 文化環境の基盤づくり	人間尊重・福祉優先を 基軸とした地域社会の構築	うるおいと活力にみちた生活文化 社会の構築－ ころ豊かな兵庫
時代背景	高度経済成長期 1955～1973年 経済成長10%以上 1968年 GNPが世界2位に 1964年 東京オリンピック 1970年 大阪万博 テレビ・洗濯機・冷蔵庫「3種の神器」	安定経済成長期 1970年代半ば～ 経済成長6%程度 1972年 日本列島改造論 1973年 第1次オイルショック 1979年 第2次オイルショック テレビが一家1台から2台に	バブル経済の過熱と崩壊 1990年代半ば～ 3%以下低成長に 1985年 プラザ合意・円高 地価高騰・バブル過熱 1990年代バブル崩壊 1995年 阪神・淡路大震災

社会は「成長」
から「成熟」へ

阪神・淡路大震災からの創造的復興
「参画と協働」の県政の芽生え

従来の総合計画から「みんなのビジョン」づくりへ

21世紀兵庫長期ビジョンの概要

「21世紀兵庫長期ビジョン」 (2001年2月策定・2011年12月改訂)

県民主役・地域主導

地域主導で、県民自らが地域の「夢」を描く

「計画」ではなく「ビジョン」

事業量を示す「計画」ではなく、皆で共有できる未来像

21世紀兵庫長期 ビジョンの特徴

参画と協働

多様な主体が「参画」し、対等な関係で「協働」して実現を目指す

プロセス重視

進み具合を皆で点検・評価する「成長する」ビジョン

21世紀兵庫長期ビジョンの構成

全県ビジョン

県全体の視点から見た目指す姿

- ・ 創造的市民社会
- ・ しごと活性社会
- ・ 環境優先社会
- ・ 多彩な交流社会

共有

地域ビジョン

共通の特性を有する圏域ごとに住民が主体的に実現に取り組む地域の将来像

全県ビジョンの概要 ～4つの社会像と12の将来像～

4つの社会像	12の将来像 (実現したい姿)
<p>創造的市民社会</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 1 人と人のつながりで自立と安心を育む 2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する 3 次代を支え挑戦する人を創る
<p>しごと活性社会</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 4 未来を拓く産業の力を高める 5 地域と共に持続する産業を育む 6 生きがいにあふれたしごとを創る
<p>環境優先社会</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 7 人と自然が共生する地域を創る 8 低炭素で資源を生かす先進地を創る 9 災害に強い安全安心な基盤を整える
<p>多彩な交流社会</p> 	<ol style="list-style-type: none"> 10 地域の交流・持続を支える基盤を整える 11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す 12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

地域ビジョンの概要 ～個性豊かな将来像～

◆人の輪と地域の輪がつながる元気な 中播磨をつくろう

～つなぐ つながる 銀の馬車道～

■ 地域の夢

希望が育つ中播磨／安全安心中播磨／
自然豊かな中播磨／元気交流中播磨

◆光と水と緑でつなぐ－元気・西播磨

■ 地域の夢

人の輪社会／安全安心社会／環境王国／
きらきら西播磨

◆水辺・ものづくりのまち（東播磨）

■ 将来像

心地いいまち／楽しいまち／美しいまち／
力強いまち

◆環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～

- 理念 命をつなぐ“持続可能な島／経済・社会・環境
の調和がとれた新たな“幸せ社会”／環境立島“公園島
淡路”の理念の継承と発展

◆「楽しいまち・神戸」人々が集い、喜びと感動が共有できる

■ めざす都市像

市民自律都市／フロンティア都市／コミュニケーション都市

◆あしたのふるさと但馬 ～コウノトリ翔る郷～

- 将来像 自立の郷／賑わいの郷／癒しの郷／慈しみの郷
- 行動目標 人づくり／産業づくり／誇りづくり／安心づくり

◆みんなで丹波の森

- 理念 たんばを楽しむ連携・交流
- 将来像 みんなで創る“自立のたんば”／都
会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”／やり
がいを実感できる“元気なたんば”／多世代が
支え合う“絆のたんば”／ともに暮らす“安全
安心なたんば”

◆ひょうごのハートランド

- 地域像 交流が広がる／生活（くらし）の
絆が深まる／文化が花開く／恵み豊かな環境
が持続する／元気な産業が興る

◆阪神市民文化社会の創造

- 市民が主役となり、行政がそれを支える
- 将来像 多様で個性的なライフスタイル／自律
と協働による温かいコミュニティ／自然と豊かに
調和した安全・快適な都市環境／豊かさにとぎわ
いを創出する新たな阪神経済

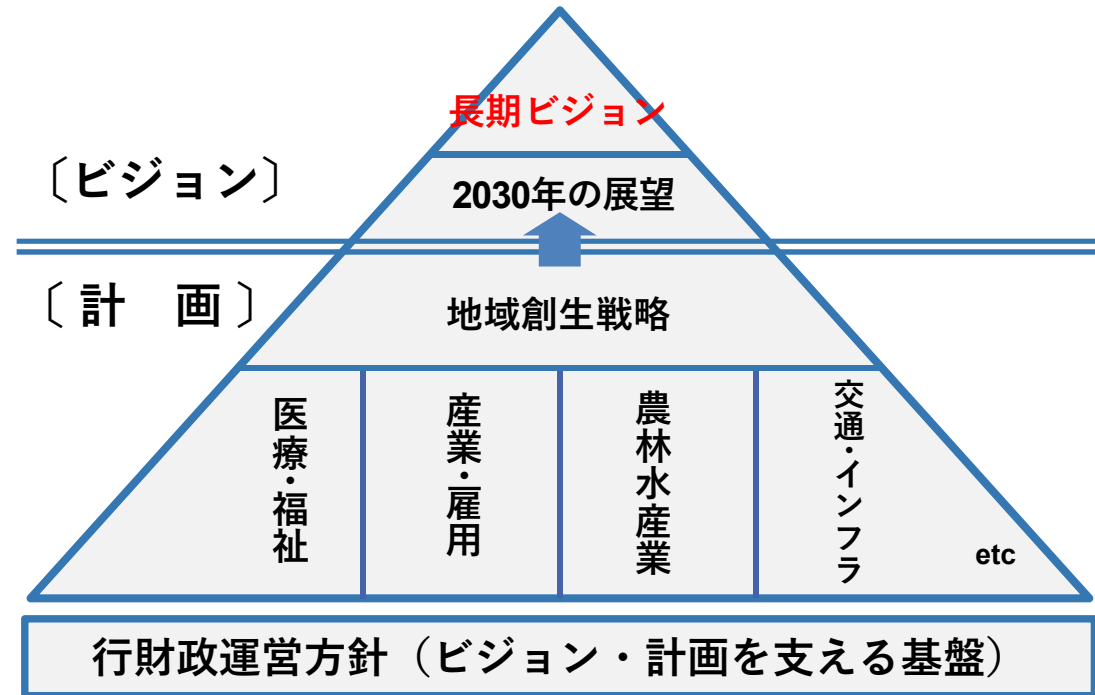


長期ビジョンの位置づけ

◆ **ビジョン**
方向性を共有するための
めざすべき将来像

◆ **計画**
ビジョンを羅針盤として
その実現に向けた
具体的な取組を提示

※「地域創生戦略」は、地域の元気づくりと人口対策に重点を置いた県計画の中で最も総合的な計画



長期ビジョンと2030年の展望の比較

21世紀兵庫長期ビジョン

約30年後を展望

今の常識にとらわれず、本当にありたい社会、
次世代に残したい社会を大胆に描く

兵庫2030年の展望 (2018年10月策定)

約10年後を展望

今の世代が引続き活躍している社会、趨勢・技術の進歩など想定され得るものを前提に描く

2 新ビジョンの策定に向けて

新ビジョン策定の背景

- ◆ ビジョン当初策定から20年が経過
- ◆ この間に、兵庫を取り巻く環境は大きく変化
- ◆ こうした変化も踏まえて、進む道を県民の皆様と共に改めて考えたい

新ビジョン策定期等

		[展望年次]
・ 2001年 2月	現行ビジョン策定	2030年頃
・ 2011年 12月	〃 改訂	2040年頃
・ 2022年 3月 (予定)	新ビジョン 策定	2050年頃

現行ビジョンの20年 主な取組と課題 ①

① 創造的市民社会

- 参画と協働を基調とした施策展開
- 地域・家庭の安全・安心の確保
- 芸術・スポーツの拠点整備の進展
- 兵庫型体験教育の推進

◆主な取組

- ・ 参画協働推進条例制定（2002）、ボランティアプラザ開設（2002）
- ・ 粒子線医療センター開設（2003）など県立病院の充実、ドクターヘリ運航開始（2010）
- ・ 県立美術館開館（2002）、芸術文化センター開設（2005）
- ・ 県立武道館開館（2002）、のじぎく兵庫国体・のじぎく兵庫大会（2006）
- ・ 環境体験、職業体験、芸術体験等の多彩な体験教育の展開、兵庫型教科担任制導入（2012）
- ・ 兵庫県立大学創立（3大学統合・2004）、公立高校学区再編（16→5学区・2015）
- ・ 出会いサポート東京センター（2015）、カムバックひょうご東京センター開設（2016）
- ・ 行政構造改革推進条例制定（2008）、関西広域連合設立（2010）

◆今後の主な課題

- ・ 未婚化の進行と更なる少子化への対応（コロナ危機を契機とした働き方変革、子育て環境整備等）
- ・ 超高齢社会への対応（医療・介護基盤の強化、増加する単身高齢者や認知症高齢者の見守り等）
- ・ 新たな時代を担う人材の育成
- ・ 参画と協働の県政の深化

現行ビジョンの20年 主な取組と課題 ②

② しごとと活性社会

- **次世代産業の集積促進**
- **国内有数の先端科学技術基盤の集積**
- **起業環境の整備進展**
- **多彩な農林水産業の強みを伸ばす取組**

◆主な取組

- ・産業集積条例制定（2002）、投資サポートセンター開設（2005）
- ・航空産業非破壊検査トレーニングセンター（2017）、金属新素材研究センター開設（2019）
- ・関西イノベーション戦略特区・あわじ環境未来島特区（2011）、国家戦略特区指定（2014）
- ・SPring-8県BL2（2005）、X線自由電子レーザーSACLA（2012）、スパコン京供用開始（2012）
- ・県立大学 シミュレーション学研究科（2011）、国際商経学部・社会情報科学部新設（2019）
- ・IT関連事業所の進出支援開始（2013）、起業プラザひょうご開設（2017）
- ・楽農生活センター開園（2006）、IWC2016「SAKE部門」兵庫開催（2016）

◆今後の主な課題

- ・人材・資本の東京一極集中の是正（若者の県内定着・環流促進、事業所誘致の推進等）
- ・次世代産業の育成（先端科学技術基盤の活用、起業・創業の促進等）
- ・農林水産業の競争力強化（法人化・大規模化、デジタル化、ブランド化、輸出拡大等）

現行ビジョンの20年 主な取組と課題 ③

③ 環境優先社会

- 環境規制に加え、**自然再生・環境創造**でも、日本を先導する取組が進展
- **阪神・淡路大震災の経験と教訓**で世界に貢献、**地域防災力強化の取組も浸透**

◆主な取組

- ・ 大型ディーゼル車運行規制（2003）、G8環境大臣会合（2008）
- ・ コウノトリ試験放鳥（2005）、尼崎21世紀の森開園（2006）、兵庫型環境学習の本格開始（2006）
- ・ 県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科開設（2009）、同地域資源マネジメント研究科開設（2014）
- ・ 県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」「県民まちなみ緑化事業」開始（2006）
- ・ 人と防災未来センター開館（2002）、国連防災世界会議（2005）、E-ディフェンス完成（2005）
- ・ 県立広域防災センター開設（2004）、県立大学減災復興政策研究科開設（2017）
- ・ 住宅再建共済制度開始（2005）、関西広域連合がカウンターパート方式で東日本大震災被災地支援（2011）

◆今後の主な課題

- ・ 地球温暖化防止への取組強化（再生可能エネルギーの活用拡大等）と気候変動への適応
- ・ 新たな環境問題への対応（マイクロプラスチックによる海洋汚染等）
- ・ 近い将来発生が懸念されている南海トラフ巨大地震、近年頻発する豪雨災害、新型感染症への対応

現行ビジョンの20年 主な取組と課題 ④

④ 多彩な交流社会

- 高速道路など交流基盤の充実
- インバウンド誘客の促進
- 地域再生大作戦の展開
- 世界との交流拡大

◆主な取組

- ・ 高速道路ネットワークの充実（大阪湾岸道路西伸部着工、山陰近畿・北近畿豊岡自動車道整備進捗）
- ・ 関西3空港の一体運営と神戸空港の運用制限緩和（2018）、伊丹・但馬路線へ新機材就航（2018）
- ・ 国際コンテナ戦略港湾に阪神港が指定(2010)
- ・ 地域再生大作戦（当初は小規模集落元気作戦）の開始（2008）
- ・ あいたい兵庫キャンペーン開始（2009）、ひょうご観光本部のDMO登録（2020）
- ・ 山陰海岸の世界ジオパーク認定（2010）、現在全国最多（9件）の日本遺産登録（2015～）
- ・ ベトナムとの交流拡大（2007～）、インド・グジャラート州との相互協力に関する覚書（2016）

◆今後の主な課題

- ・ 社会資本の老朽化対策（長寿命化等による維持更新費の抑制、公共施設の集約化・高機能化等）
- ・ 人口減少・高齢化に対応した県土構造の刷新（都市の魅力向上、多自然地域の再生・活用等）
- ・ 多文化共生の実現（インバウンドの一層の拡大、外国人との相互理解促進等）

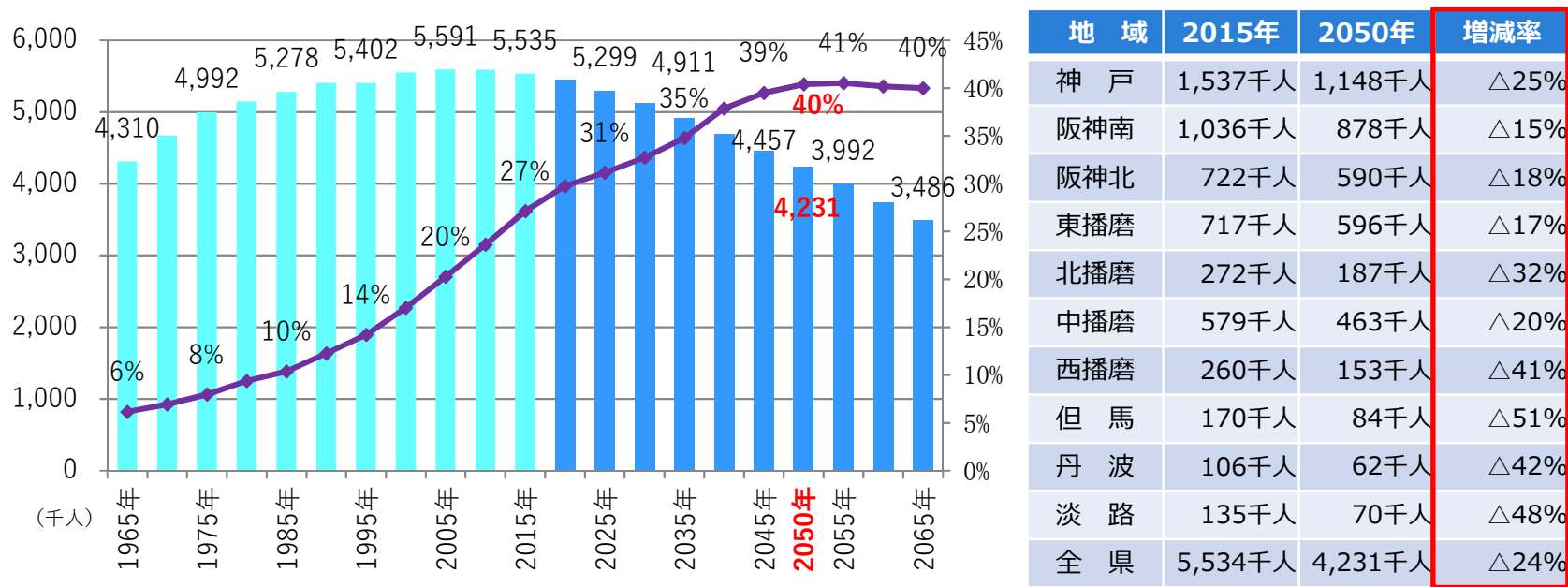
環境変化① 人口減少と少子高齢化（1）

人口減少と少子・高齢化が加速

- ・ 2015～2050年で24%・約130万人の**人口が減少** ※現在の神戸市人口150万人とおおよそ同規模が減少
地方では、減少率が50%を超える地域もあるなど、**都市部と地方の間で偏在化も**
- ・ 65歳以上の人口も2050年には40%に。介護需要も増加

◆ 人口の将来推計

1965～2065年の「人口と65歳以上人口比率」の推移（2020年以降は推計）



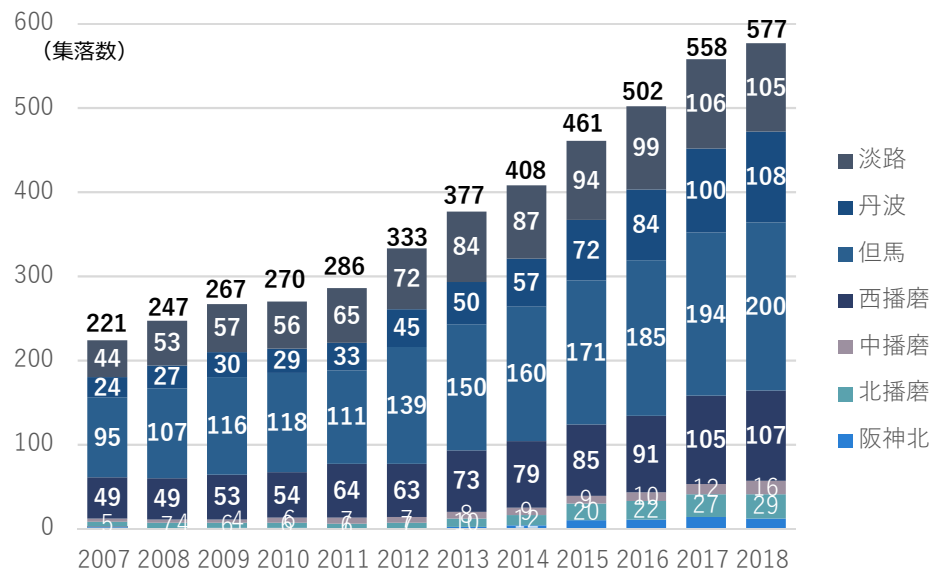
出典 2015年：国勢調査 2030年、2060：社人研推計をもとに県ビジョン課推計

環境変化① 人口減少と少子高齢化（2）

地域構造が変化し、自治機能の維持が困難な地区も

- ・ 県内の小規模集落数は継続して増加。2017現在、558集落と10年間で約2.5倍に

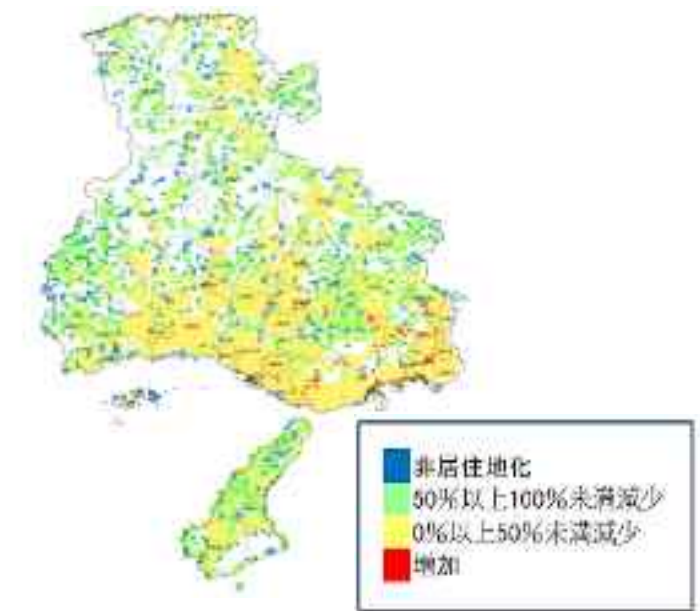
◆ 小規模集落数の推移（県）



※小規模集落： 世帯数50戸以下で高齢化率（65歳以上比率）40%以上の集落（市街地及びその周辺、駅周辺などを除く）

出典 地域振興課調べ

◆ 将来人口 約1km四方別（2010年～2050年の増減）



出典 国土交通省「国土のグランドデザイン2050」(2014)

新技術の活用が豊かな社会を創る鍵に

- ・ AI、IoT、ロボットなどの**革新技术**は社会を一変させるインパクト
- ・ **コロナ禍**でテレワーク、オンライン授業、オンライン診療などの活用が拡大

	技術革新の主な事例	
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○キャッシュレス決済、デジタル通貨 ○AI家電、自動翻訳 	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン授業 ○防犯カメラのAI解析
移動	<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転 ○コネクティッドカー 	<ul style="list-style-type: none"> ○ドローン配送 ○トラックの隊列走行
健康	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン診療 ○ビッグデータによる健康管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護ロボット ○AIを用いた診断支援
産業	<ul style="list-style-type: none"> ○省人化・無人化工場 ○消費者データによる需要予測 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレワーク、Web会議 ○スマート農業

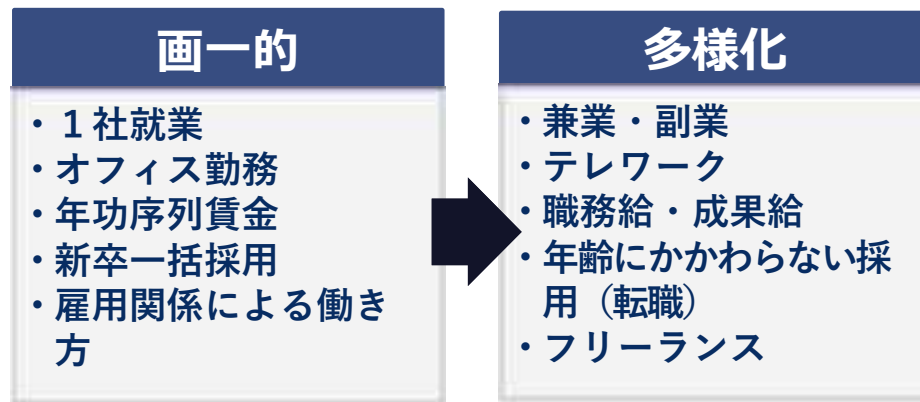
播磨科学公園都市で自動運転公道実証した遠隔自動運転車両



ライフコースの多様化、脱「定年退職」

- ・テレワーク、兼業・副業など働き方の選択肢が拡大。働き続けたい人の増加
- ・「教育」「勤労」「引退」の3ステージの人生から、いつでも再チャレンジできるマルチステージの人生に

◆働き方の多様化



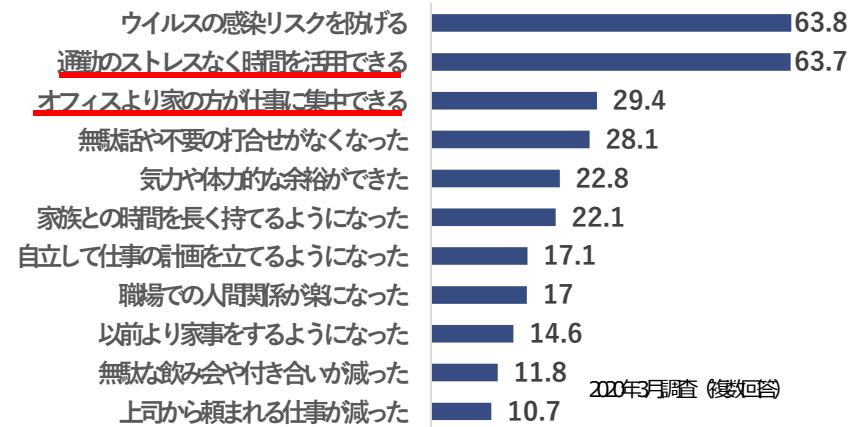
◆働き続けたい年齢

65歳を超えて働きたい：65.9%



出典 内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(2013)

◆在宅勤務して良かったこと



出典 Biglobe Style 0 10 20 30 40 50 60 70



テレワーク

世界的な交流の拡大

世界を行き交う人・モノ・情報の量とスピードが飛躍的に拡大

- ・世界人口の拡大と所得の増加に伴って**外国人旅行者**が増加
- ・情報コミュニケーション基盤の進歩が、**瞬時の情報共有**を実現
- ・**基幹道路**ネットワークの整備や、**関西3空港**の一体運営が進展

◆ 世界人口の増加



◆ 外国人旅行者の増加



◆ 世界の貨物量 (海上輸送量)

2005年 78億t → 2017年 116億t

◆ 情報交流の拡大



◆ 陸海空の交通インフラの充実

区分	内容
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・中国横断自動車道臨島取線(2021年度完成) ・大阪湾岸道路西伸部[六甲アイランド北~駒栄] 名神湾岸連絡線、山陰近畿自動車道兵庫道路Ⅱ期、北近畿豊岡自動車道[日高神鍋高原~豊岡]、東播磨道(2030年頃までの完成) ・山陰近畿自動車道[全線]、北近畿豊岡自動車道[全線] 神戸西バイパス、播磨臨海地域道路(早期完成に向けた整備推進)
空港	<ul style="list-style-type: none"> ・関西3空港の一体運営、伊丹・神戸の国際化の推進
港湾	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸港の国際戦略港湾としての競争力強化
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線 名古屋-大阪間(2037年頃開業想定)(8年間前倒しの場合) ・北陸新幹線 敦賀-大阪間(リニアとの同時開業に向け努力)

環境変化⑤ 高まるリスクと持続可能な環境づくり

リスクを正しく捉え未来を創る

- ・ 地震、風水害、感染症など、**高まるリスク**への危機管理の強化が必要
- ・ 地球温暖化の進行に対し、地域から持続可能な**環境社会を先導**

◆ 南海トラフ地震

・地震の規模 M8～9クラス ・発生確率 30年以内に70%～80%

◆ 多発する豪雨

・1時間に80mm以上の降水発生回数(全国・年平均)

1976～1985年 2006～2015年

10.7回 → 18.0回



丹波豪雨による被害 出典 国土地理院環境ホームページ

◆ 新感染症のパンデミック

- ・2003年 : SARS (重症急性呼吸器症候群)
- ・2009年 : 新型インフルエンザ
- ・2020年 : 新型コロナウイルス



液化水素運搬船

◆ パリ協定の発効

- ・パリ協定のもと、温室効果ガスの排出量を2030年度までに26.5%削減
- ・温室効果ガス排出量 (県)

2013年 75,182kt-co2

2030年 55,248kt-co2 (△26.5%)

◆ 水素社会の到来 【2030年頃の普及イメージ・国ロードマップ】

- ・海外からの未利用エネ由来水素の製造、輸送・貯蔵の本格化

新ビジョンを考える切り口となる主要テーマ ①

① 新しい暮らし・働き方

- ◆ 県民の価値観、ライフスタイルの変化
- ◆ 家族、地域コミュニティの形・機能・役割
- ◆ 人生100年時代の新しい働き方、ライフコース
- ◆ AIなど技術革新が変える暮らし・社会・産業の姿
(生活空間、移動通信、医療介護、製造・サービス・農畜林水産業)
- ◆ 格差社会への対応

② 次代を担う産業・人材育成

- ◆ 兵庫を支える産業の姿
- ◆ 今後求められる人材と学びの姿
- ◆ 世界との交流、世界の変化（人口・経済力）への対応

新ビジョンを考える切り口となる主要テーマ ②

③ 未来の地域構造

- ◆ 県内の多様な地域の姿、そこで営まれる暮らしのイメージ
(都市中心部、郊外ニュータウン、地方都市、多自然地域)
- ◆ 社会インフラの整備と維持更新のあり方
- ◆ 南海トラフ地震後の兵庫の姿、新型感染症への対応

④ 環境・資源の持続可能性

- ◆ 気候変動（地球温暖化）への対応、エネルギー自給
- ◆ 森林・海洋の環境変化、持続可能な農林水産業の展開
- ◆ 人と自然との共生のあり方

新ビジョンに関する主な意見（将来構想研究会）

① 定住の時代から流動化の時代へ

- 定住の時代は終わる。場所に縛られるオフィス勤務はなくなり、**住まい・職業の流動性**が高まる時代に

② 多自然地域こそ若者のフロンティア

- **若者のフロンティア**は、これまでは世界だったが、これからは課題の山積する多自然地域になる。イノベーションの発信地は地方に



designed by Freepik



designed by Freepik



出展 office Website

新ビジョンに関する主な意見（将来構想研究会）

③ 兵庫が最先端ビジネスの発信地に

- AI等の最先端技術を活用した**実験的なビジネスが、全国に先駆けて県内どこでも展開**できる兵庫に

④ 大企業信仰が消え、個人事業主が主役に

- 大企業信仰がなくなり、起業や副業、フリーエージェントなど、**自由に能力を発揮できる働き方が拡大**



designed by Freepik

新ビジョンに関する主な意見（将来構想研究会）

⑤ 地域コミュニティが体験教育を展開

- 情報通信教育が拡充する一方で、人間性を養う体験教育が重要に。**地域コミュニティが中心となって体験教育を展開する兵庫モデルが確立**

⑥ 自分なりの生き方を追求

- **働き方の多様化**が進むにつれ、自由な時間が増え、誰もが**自分なりの生き方**を大切にする社会に（学び直し、芸術文化・スポーツ、地域活動等）



出展 丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム



出展 豊岡市



ポストコロナ社会兵庫会議

<趣旨>

五百旗頭県立大学理事長の発案により、兵庫ゆかりの有識者による「ポストコロナ社会兵庫会議」が国をはじめ広く社会に対してコロナ後の社会のあるべき姿を提言

<構成員（12名）>

- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 荒川 創一 | 神戸大学大学院医学研究科客員教授 |
| 安藤 忠雄 | 建築家 |
| 家次 恒 | 兵庫県商工会議所連合会会頭（シスメックス(株)代表取締役会長兼社長CEO） |
| 五百旗頭 真 | 兵庫県立大学理事長、（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長【座長】 |
| 加治佐 哲也 | 兵庫教育大学学長 |
| 金出 武雄 | カーネギーメロン大学教授、京都大学高等研究院招聘特別教授 |
| 砂原 庸介 | 神戸大学大学院法学研究科教授 |
| 高土 薫 | (株)神戸新聞社代表取締役会長 |
| 畑 豊 | 兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科教授 |
| 平田 オリザ | 劇作家・演出家 |
| 南 裕子 | 神戸市看護大学学長 |
| 室崎 益輝 | 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授 |



令和2年7月8日 提言書発表

ポストコロナ社会兵庫会議の提言①

① パンデミック時代の危機管理

- 感染症の歴史は新たなステージに入った。ウィルスは人類のつくったグローバリゼーションに乗って全世界に広がる。たとえ抑え込んでも、新たなウィルスが必ず襲来する。この現実を前提に、医療・検査体制の強化、自然災害と感染症の複合災害への備えなど、**新たな時代に即した危機管理体制の構築が必要**

(危機管理省の設置、科学的な政策判断、医療体制の強化、緊急時対応の法制化、避難所革命)

② デジタル革新の加速

- 非接触や外出自粛が求められる環境下、デジタル技術が経済社会の生命線となり、テレワークやオンライン教育などの壮大な社会実験が広がった。世界に大きく遅れをとっている**デジタル化を全社会を挙げて加速**させなければならない

(テレワークを当たり前の働き方に、オンラインを組み込んだ学校教育のハイブリッド化、オンライン診療の研究、通信能力の高度化、マイナンバーの活用と個人情報保護)

ポストコロナ社会兵庫会議の提言②

③ 産業の競争力・リスク耐性の強化

- 産業の競争力とリスク耐性を高めるため、AIやIoT、ロボットなど**新技術の導入を加速**させるとともに、特定の国に過度に依存したサプライチェーンを見直すべき
(サプライチェーン再構築、デジタルリテラシー向上、スタートアップ支援)

④ 分散型社会への転換

- コロナ危機は、人が密集する都市集中型社会の脆弱性を明らかにした。働く場所を自由に選べるテレワークの普及を図りつつ、都市・地方がバランスのとれた**分散型社会への変革**を図るべき
(大胆な地方分散政策、新しいライフスタイルの確立、住環境の充実、芸術文化拠点の分散化)

⑤ 社会の絆の再生

- 日本が比較的早く第1波を抑え込むことができたのは、格差の少ない社会において、政府の要請に対する認識力や国民的一体性の高さがあったからではないか。コロナ禍を契機に**社会の絆、コミュニティの大切さ**を改めて訴えるべき
(セーフティネットの充実、サードプレイスの創出、連帯と共生のメッセージを世界に発信)